



人生を変える人に出会いに行く  
見守り育てる「聡明・端正」な女性



麹町学園女子中学校高等学校

地域の名を冠し、明治38年(1905年)に設立された麹町学園。  
周辺には各国大使館や文化施設、名だたる企業の本社などが立ち並び、  
良質な学習環境と交通アクセスの良さを兼ね備えている。  
学校で過ごす6年間を2年ごとに区切り、「基礎期」「充実期」「発展期」  
と明確にすることで、充実したキャリア教育を実現し、『豊かな人生を  
自らデザインできる自立した女性』を育む。



昼食も2人の担任と共に過ごすため、早くから信頼感が生まれる



麹町学園では、AFS（国際教育交流団体）の留学制度を利用してマレーシアとスイスにそれぞれ1年間留学している生徒がいる



『こうじまちゼミナール』での『みらい論文』の指導風景



OGの金井江理子さん



「麹町学園通り」の名称は、地域との結びつきから生まれた



ニュージーランド語学研修



「一万字に刻まれる『みらい』への懸け橋

「ジョーの作り方を調べたい」「USJやディズニーランドの集客力を女性目線で分析したい」——ゼミでの一風景だ。といっても大学ではなく、麹町学園のオリジナルキャリア教育プログラム「みらい科」の取り組み。「こうじまちゼミナール」でのことである。中学3年生になると、生徒は「外国語」「日本史」「保育」「医療・福祉」など26の研究テーマの中から興味のある分野を選び、2年間かけて論文を作成する。ゼミにはそれぞれ専門分野を活かした教員がおり、また他の生徒と議論を深める中で、価値観や人間性を鍛え、自立した女性としての一歩を踏み出せる。

さらに実践的なものとして企業との連携を行うことも麹町学園の特色だ。取締役会やマーケティング会議といった現場の傍聴、プレゼン資料の作成方法など、生きた機会に触れることを旨としている。昨年度はエコの建材を開発した企業とコラボレーションし商品作りに携わった。地域との結びつきも強く、合同での防災訓練や、地元企業が開発した災害時用の風力・太陽光発電システムの設置場所の提供なども行っている。

そうした多くの人と触れ合う場を設けているのは、「人との出会いが財産になるからだ」と相川忠洋理事長・校長は言う。良いことも悪いことも含めてその経験が自分をつくります。だからこそひとつでも多くの機会に触れさせたい」という考えがあり、さまざま人と交流を図る上で必要となるあいさつや敬語、ルールなどを入学時からしっかりと指導している。関係の築き方を学ぶことで、表面的なコミュニケーションにとどまらず、成長につながる出会いが生まれるのだ。



OGの伊藤瑤安椰さん（在学中、全国大会に出品した作品の前で）



卒業生による進路ガイダンス



相川理事長・校長「卒業生には『行ってらっしゃい』、再び訪れた時には『お帰りなさい』といつも言っています」

### 見守られることから生まれる、無限の可能性

「麹町学園では先生がいつも見守ってくれていました」と、卒業生の金井江理子さんは懐かしそうにほほ笑んだ。高3次のクラス担任は、もの作りが好きだった彼女に、「好きなことは続けなさい」と後押しし、当時は女性の少なかった工学部を紹介、一級建築士となるきっかけを作った。ホームルームの際、近くの建物を見学に訪れたことも今の仕事に活かされているという。「大事なものは揺らぐ自分を立て直してくれる人との出会いとその言葉を聴く耳。在校時、ある先生が「板書だけでなく、授業で言ったことはすべてメモしなさい」とおっしゃって、勉強する上でとても役立ちましたね」

明治大学法学部在学中の伊藤瑤安椰さんは、麹町学園で書道に出会い、全国大会にも出場。現在も書道活動を継続し、9大学が集まる東京学生書道連盟の幹事を務めている。「顧問の先生から「かな文字」の学習を勧められて一気に夢中になりました。大会などを通じてたくさんの人と仲良くなれたし、それに麹町学園の子はみんな優しく、毎日朝早くから登校していました」。学習面では、書道に励む時間を取るためメリハリのある生活リズムを意識するようになったという。特に活用したのがeラーニング。電子黒板を使用した密度の濃い映像教材を、自分のペースで視聴できるため、主体性を持った勉強ができた。また卒業生が防犯、生の声を伝えてくれたことで、大学生活のイメージが具体的に変わった。

かつて今も共通しているのは、ふとした興味をすくい上げる教員の目。麹町学園では教員が生徒を見守る伝統が受け継がれており、そうした「気づき」への意識が、2012年、「2人担任制」へと結実した。中学1・2年の間、男女それぞれの担任が異なる視点から生徒を観ることで、新たな環境でのスタートを手助けする。今の中学3年生を覗くと、安心の中で伸びていることが実感できます。女の子にとって、みてもらっていると「これは大事ですから」（河越多衣子学年主任）

麹町学園にはさまざまな地域の生徒が集う。そんな彼女たちを優しく見守るまなざしがあるからこそ、出会いを楽しみ、人生の糧とすることができるのだ。伊藤さんは笑顔でこう語った。努力を続けられる秘訣は出会いかなと。



吹奏楽部練習風景

